

望天 観気

自然と都市の共生

森林にはCO₂の吸収・生物多様性保全、土砂災害の防止など多面的機能がある。一方で日本では、1964年に木材の輸入自由化が導入され、建築製材の半数以上を輸入材に依存した結果、国内林業が衰退し、森林を荒廃させ、社会問題にもなっている。

弊社グループは、東京に木材サプライチェーンを構築することで、それらの課題解決に向けた事業に取り組んでいる。2022年10月より、自然環境に恵まれた東京都・奥多摩町で、約130畝の「つなぐ森」と命名した社有林を保有している。木材を弊社グループ内で産地消するため、当初から東京都内の所在にこだわって検討した経緯がある。企業が「循環する森づくり」を目的に森林を購入した珍しいケースだと思ふ。

「つなぐ森」から産出される木材は、内外装建材や家具などに加工し、弊社グループ内の事業場で100%利用をめざしている。木材加工は東京都森林組合、地元製材加工所、建材メーカー、施工会社、家具メーカーなど複数の共創パートナーからなるサプライチェーンを構築。流通の川下需要を弊社グループが担うことで、毎年一定量の仕事を継続提供できる。他方、国内産木材価格、加工コストは決して十分な対価とは言えず、業務の収益性改善に課題が残る。

また、生態系を調査し、これまでにヒガシヒダサンショウウオ（絶滅危惧種）など50種類の重要種の生息を確認してきた。専門家の指導も仰ぎ、木材主伐は「小規模モザイク状皆伐」方式とした。毎年離れたエリアを小規模に皆伐するこの手法は、生態系の保全や土壌・水源涵養に有効だという。主伐後は広葉樹と針葉樹を交え植林し、異なる高さの樹木で構成される複層林の再生を試みる。

当事業は、都市と山間部における新しい経済循環を創出するモデルケースとなるだろう。広く伝えていくことも大事な使命だと考えている。森と都市が共生する「つなぐ森」での取り組みにより、国産材の利用促進や林業の復興に貢献していきたい。



田中 克弥

野村不動産ホールディングス株式会社
執行役員サステナビリティ推進担当

たなか かつや
1993年同志社大学法学部卒業。同年4月野村不動産株式会社入社。入社以来住宅事業部門における分譲住宅（クラウド）の営業を長く経験。大阪、首都圏にて営業部長を経験後、2018年執行役員就任。19年から4年間は名古屋支店長。23年4月より現職。